

A grayscale photograph of a long, narrow hallway. The perspective is from the far end of the hallway, looking down its length. The walls are on either side, and the floor is visible. At the far end of the hallway, there is a bright, glowing light source, possibly a doorway or a window, which creates a strong contrast with the darker surroundings. The overall mood is quiet and contemplative.

余白

あの人^が立^{った}瞬^間、
場^に、間^がひ^{らく}。

言葉は交わされている。
沈黙しているわけでもない。

それでも、
その人の近くでは、
会話が急がれない。

空気が、
詰められなくなる。

余白は、
無口さではない。
消極性でも、引きの姿勢でもない。

言わない技術でも、
距離を取る選択でもない。

それらはすべて、
あとから見える形にすぎない。

余白は、
何かを取りに行かないときに生まれる。

評価を取りに行かない。
理解を求めに行かない。
意味を置きにいかない。

その人は、
場に対して、
何も要求していない。

だから、
場は埋まらない。

言葉は足されず、
沈黙も補われない。


余白は、
つくられたものではなく、
削られずに在り続けている現象である。

余白のある人は、
人を黙らせているのではない。

人が、
自分の間で呼吸できる状態を、
壊していない。

その人がいることで、
会話は間を持ち、
判断は急がれない。

余白は、
その人が場を乱していない証拠である。



間は、
与えられたのではない。

最初からそこにあり、
最後まで、壊されなかっただけ。

Edition — 存在の芯
別景：余白

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026